

# ジャンル別収集〈貿易銀編〉

ドクトル・マサ

今回は、ここ数年入手困難になっている貿易銀のお話をしたいと思います。新一円銀貨は、明治七年の政府の布告により、竜図面にローマ字の ONE YEN の左右に 416・900 の数字が加わりました。これは量目 416 グレイン・銀品位 100 分の 900 を表示したものです。政府が国内通貨の他に東洋市場での活躍を期待して貿易一円銀貨を制定したのですが、残念ながら思うようにいきませんでした。実はその当時、東洋市場で圧倒的な勢力を占めていたのは、量目が 417 グレインもあるメキシコハレアル銀貨でした。これに気付いたアメリカ政府が一八七三年（明治六）に、メキシコ銀貨よりも銀が多い、量目 420 グレイン（二七・二グラム）・銀品位 100 分の 900 の、トレード・ダラーの製造を始め、これに習い日本もまた明治八年二月二十八日から貿易一円銀貨の形式を変更しました。量目をアメリカ貿易銀と同じ 420 グレイン（二七・二グラム）に増やし、竜図面に「420 GRAINS TRADE DOLLAR 900 FINE」と英文で明示し、菊紋面も漢字表記で貿易銀としています



資料1 『太政類典』第二編 明治八年二月二十八日  
貿易銀の図面（上）と円銀の図面（下）  
アジア歴史資料センター（原本所蔵：国立公文書館）

（資料1）。  
ところがアメリカ・日本両政府の思惑は見事に外れました。量目が 420 グレインになった事により、目ざとい清国商人が目をつけ、この銀量の多いトレード・ダラーが市場に出回ると争って手に入れている、鑄潰して利益を得ていったのです。またその当時この両国のトレード・ダラーは知名度が低かったのも原因と言われております。  
このために日本の貿易銀は明治八年、九年、一〇年の三年間の短命に終わり、明治一一年か

らは通常の一円銀貨の発行に戻されました。

貿易銀は三年間で三、〇五六、六三八枚発行されましたが、この鑄潰しによって大量に失われたために現存数が少なく、日本の近代銀貨の希少品となっております。このために莊印を埋めた修正品や贗造品がネットオークションなどに多数出回っております。

貿易銀の年号面は基本的に一種類の刻印で、菊紋面は四種類の基本的な刻印が存在します。次に菊紋面の四種類の刻印を紹介します。

### 一、大桐タイプ（画像1）

全体的に浅い彫りで、桐葉が全体に大きく特に第一〇葉が右に大きくせり出しております。最前期のものと考えられます。

### 二、短支脈タイプ（画像2）

主葉の中央を走る主脈から出る支脈の下から三本目の枝脈の先端部が短く分かれているもので支脈は互生です。これは明治八年と九年に見られ、特に明治九年銘は稀少タイプです。

### 三、長支脈タイプ（画像3）

主葉の中央を走る主脈から出る支脈の下から